

徳川頼宣公を忍ぶ

「お日待ち」

1/9
10



裸詣りの伝統文化守を継承する



▽…江戸時代、有田市の「矢櫃地区」に漁業を推奨し、繁栄をもたらした初代藩主・徳川頼宣公に感謝をし、功績をしのぶ「お日待ち」と呼ばれる伝統行事が1月の第1土・日、こころは9・10日に同地区

の矢櫃漁港周辺で行われた。

初日の9日は朝から、地元の人たちやカメラマンらが見守る中、頭に櫛を刺した、ふんどし姿の男たちが冷たい矢櫃漁港内の海に入り湾を横切るように泳いで身を浄め、恵比寿神社と南龍神社を参拜。その後僧侶による供養が行われた。

「裸詣り」の伝統は一度途切れたが、6年前に復活。参加者を地元だけでなく公募するなど盛り上げ、同市の文化として次世代への伝統の継承を目的に参加人数も多くなってきた。

裸詣りのあとは、公民館で紀州徳川家菩提寺の長保寺から僧侶を招き、仏式で追悼供養。例年は、地区民らが敬老の催し(カラオケ)を行ったり、子どもたちのゲーム大会などがおこなわれるが昨年に続きコロナで中止に。

翌日は代表者らが下津町の長



保寺へ代参。頼宣公が好物だった小豆一升を持って参拝した。